救助訓練

【報　告　者】Ｙ松
【日　　時】２００９年１１月２９日（日）　　【天　候】くもり
【参　加　者】Ｉ木・Ｕ津・Ｍ下・Ｉ田・Ｉ丸・Ｔ橋・Ｉ村・Ｓ崎・Ｋ賀・Ｋ崎・Ｆ田・Ｙ本・Ｉ上･Ｔ中ま・Ｕ野・Ｎ崎・Ｉ富・Ｉれ・ｆゆ・ｆか・Ｋ島・Ｋ島・Ｋ奈・イワネ・Ｉ内・Ｏ森・Ｔ石り・Ｓ藤・Ｋ原・Ｙ松

≪　報　　告　≫

鳥栖の四阿屋駐車場に集合し、４グループに分かれての救助訓練開始です。山での救助訓練と聞き「ファイトー！いっぱーつ！」的な画を想像していましたが、Ｉ木さんが用意してくださった資料をもとに、ブルーシートを広げ、和気あいあいと各グループが訓練に取り組んでおられました。

私達のグループでは、Ｉ田さん・Ｔ中まさん両氏の優しいご指導のもと、メニューが進んでいきます。まず、年季の入った救急セットを見せてもらい、こんなに小さなポーチにこれだけのアイテムが…！と一つ目の驚き。準備の大切さを知りました。
次に、受傷した時の処置法や搬送法です。搬送法では、ザックやストック、雨具やザイルを使ったやり方など色々パターンを試しましたが、やってみた感触としては、ザイルを使った方法が一番良かったようです。ザックを空にする必要がない・簡単にできるなどのメリットもありますが、赤ちゃんのおぶい紐と同じ原理で何より安定しました。とは言え、人を背負って下山するとは考えられないよろめき様で、とにかくまずは自分が背負われないようトレーニングすることが大事だなと胸に刻みました。

その後は軽い昼食を摂り、駐車場から四阿屋岩場へ移動。そこで、各グループ毎に地形を活かしての訓練を行いました。更に、ツェルトの活用法・ロープの結び方なども教わることが出来ました。ロープの結び方も見るのとやるのでは大違いで、頭の周りに「？」が２～３個浮んでいたはずです。

今回の救助訓練は、山だけではなく他の場面でも活かすことが出来そうで、とても有意義でした。また、山行の少ない報告者にとって多くの方を知るいい機会となりました。リーダーをして頂いたＩ木さん、ありがとうございました。参加された皆様、お疲れ様でした。